

8. ナシ‘新高’の果頂部切除による果形の改善（技術）			
[要約] 満開後30日目ごろから45日目までに<u>果頂部</u>を<u>切除</u>すると、切除跡をあまり目立たずに<u>果形</u>改善ができる。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

[背景・ねらい]

露地および雨よけハウス栽培では、開花直後に受粉を行うと果頂部の突出した果形になりやすい（平成7、8年）。開花日は個々の花で数日の差があり、また、開花期の天候によっては適期に受粉できない場合があるため、果頂部の突出した果実がしばしば発生する。そこで、幼果期の果頂部切除による果形改善効果を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 幼果期に果頂部を深く切除しても、収穫時における切除箇所は腐敗しなかった。
2. 大きく切除するほど収穫時の切除跡は大きかった。
3. 収穫時の切除跡は、満開後31日目切除区ではほとんど目立たなかった。45日目切除区は31日目切除区より目立ったが、色が薄く軽い霜害跡程度であった。満開後72日目切除区は切除跡がかさぶた状になり、かなり目立った（図1）。
4. 果頂部突出果は、幼果期に果頂部を切除することで収穫時の果頂部突出長が短くなり果形が改善された（表1、図2、3）。
5. 切除処理による果実品質への影響は認められなかった（データ省略）。

以上の結果から、満開後30～45日ごろ（果実横径：約2～3cm）に果頂部を切除すると果形改善が図られる。

[成果の活用面・留意点]

1. 果頂部以外の箇所における切除の影響は明らかでない。
2. 切除は晴天日に行う。
3. 切除の程度は処理時期や果形により異なるが、摘果バサミで高さ3mm程度を目安に行う。

[具体的データ]

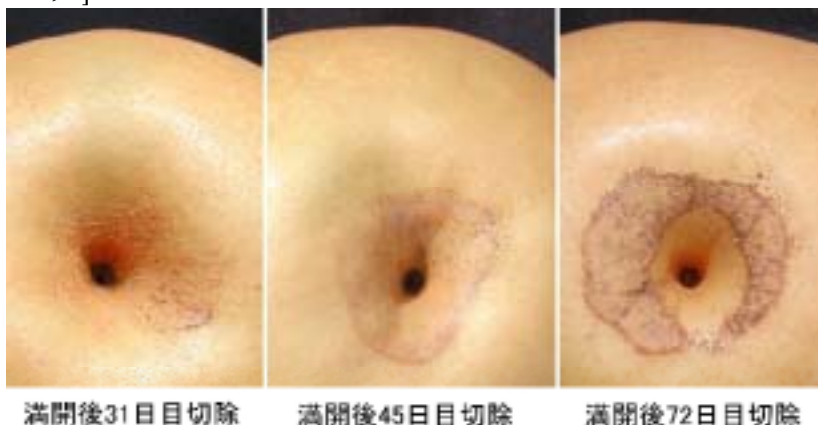


図 1 果頂部切除時期の相違が収穫時の果実外観に及ぼす影響

注) 満開後31日目区は切除跡のカスを指で触り落とせば切除跡がほとんど目立たない

表 1 果頂部の切除処理が果形に及ぼす影響

区	満開後45日目		収穫期		供試数 (個)
	突出長 (mm)	果形指数 ^{a)}	突出長 (mm)	果形指数	
45日目切除(突出 ^{b)})	4.8a(1.4b) ^{c)}	1.17a(1.02b)	0.7a	0.85	7
無処理(突出)	4.8a	1.16a	10.5b	0.90	4
無処理(果形良好)	1.4b	1.04b	2.2a	0.87	10
有意差 ^{d)}	**	*	**	n. s.	

a) 切除前の値であり、()内は切除直後の値 b) 果頂部突出果

c) 異英文字間にはTukeyのHSD検定により有意差が有ることを示す

d) **は1%、*は5%水準で有意差があることを示す



図 2 果頂部切除前(左)および切除直後(右)の状況(満開後45日目)



図 3 収穫時における果頂部突出果(左)と切除処理果(右)
(切除処理果は図 2 と同一果実)

[その他]

試験研究課題・事業名：新高ナシの超早期出荷技術開発

予算区分：県単

研究期間：平成10～14年度

関連情報等：平成7年度試験研究主要成果：ハウス栽培‘新高’の受粉適期の把握
平成8年度園芸学会中四国支部：受粉時期の早晚がハウス栽培ナシ
‘新高’の結実と果実形質に及ぼす影響